

平成28年度 上田市立菅平小・中学校
学校自己評価の分析と考察 <前期>

※分析および考察中のA、B、C、Dは、「かなりできている（かなりそう思う）」・「どちらかという、できている（どちらかという、そう思う）」・「どちらかという、できていない（どちらかという、そう思わない）」・「ほとんどできていない（ほとんど思わない）」に、それぞれ対応しています。

【教育活動】…児童・生徒へのアンケート結果より

§ 1 生徒指導

- ① <発見と啓発> 相手の良さに気づき、発信しているか。
(小) A・B の合計は80%を越えている。(前年度後期比+13ポイント) 特に、A と回答した児童の割合が25ポイントも伸びた。友の良さを見つけ進んで伝えていこうとする様子が見られる。
(中) A・B の合計が87%となり、前年度後期に比べると32ポイントも高くなった。B と回答した生徒の方が多いので、まだまだ積極的とは言えないが、友の良さを認め伝えていこうとする姿が増えてきている。
- ② <相手意識のある挨拶> コミュニケーション能力を高めているか。
(小) A・B の合計は90%を越え、前年度後期と同じ高い数値となった。
(中) A・B の合計は、中学校でも90%を越えている。前年度後期に比べると22ポイント高くなった。挨拶への意識が向上してきているようだ。

<「§ 1 生徒指導」についての考察>

友だちの良さを見つけ出し、伝えていくという点では、小中共に向上しています。授業や学級の様々な活動において、友との関わりを通して、仲間の頑張りを認め合ったり、友だちの考えの良さに気づいたりする経験を積み重ねてきたことが、成果に繋がっていると思います。これからも、互いに学び合い、支え合い、クラスの仲間の良さをみんなで共有できる活動を大切にしていきたいと考えます。

挨拶については、小中共に意識の高まりを感じます。小学校では、児童会による『あいさつ運動』や、毎朝、校長室や職員室のドアを開けて大きな声で挨拶をして教室へ向かう習慣などが、大きく影響しています。中学校では、大きな声で挨拶するのが苦手な生徒もいますが、きちんとした挨拶ができる生徒が多いです。夏部活を通して挨拶の大切さを学ぶ機会があったことも、挨拶に対する意識向上に繋がったと思います。挨拶をコミュニケーションや良い仲間作りの第一歩として捉え、児童会や生徒会の活動はもちろんですが、日常生活の中で教師から積極的に児童生徒への明るい挨拶を心がけたり、授業の始まりと終わりの挨拶などを大切にしたりして、「いつでも」「どこでも」「だれにでも」気持ちの良い挨拶ができるよう指導していきたいと思います。

§ 2 学習活動

- ③ <学習の約束> 学習習慣の定着は図られているか。
(小) A・B 合わせて95%である。特に、A と回答した児童が半数を超え、宿題についてはきちんとやろうとする習慣が身についていると言える。
(中) A・B がほぼ同じ割合で、合わせて約70%である。前年度後期は、A の回答がなかったが、その点では向上している。提出ノートなどについては、提出することが最優先され、内容を深めるまでには意識が向いていないように思われる。C・D と回答した約1/3の生徒については、個別の指導が必要であろう。
- ④ <学力定着> 小・中学校の先生が連携して授業を行っているか。
(小・中) A・B と回答した児童生徒は、小学校では98%、中学校では100%であり、たいへん良好である。A の回答は小学校・中学校共に80%近くに達している。どの教師の授業も一生懸命取り組みたいという姿勢がうかがえる。
- ⑤ <授業改善> 分かりやすい授業になっているか。
(小) C・D の回答がなく、特に A と回答した児童が全体の3/4に達している。教師側の授業改善に向けての努力や工夫が成果として表れている。

(中) 中学校でも、C・D の回答がなく、概ね良好である。小学校と比較してみると、A の回答の割合が下がり、A・B の回答が同程度になっている。中学生になると、教科の得手不得手ははっきりしてきたり、内容も小学校に比べると高度になって理解するのが難しくなったりする。授業改善に向けての努力を継続し、授業の質をさらに向上させていかなければならない。

<「§ 2 学習活動」についての考察>

家庭学習については、小学校では、家庭での学習の成果を認め、個々が意欲を高めながら、喜んで学習に取り組めるよう、今後も支援していきたいと考えています。中学校では、提出ノートの内容についても個々に指導し、家庭での学習の成果が上がるよう支援していきたいと思えます。また、「こんな学習を重ねることでこんな力がつく」というような、見通しを持たせることも、意欲を向上させるという点では、必要ではないかと考えます。

家庭での学習や授業などに取り組む姿勢については、前年度後期に比べると、小学校・中学校共に向上してきています。中学校で、特にその傾向が強くあらわれています。スキー活動が始まって、学習との両立をしっかりと指導し、学力の定着を図りたいと思えます。

授業改善については、小学校・中学校共に、常に重要な課題として受けとめて、力を入れていきます。「もっとできるようになりたい」とか、「もっと知りたい、分かってほしい」という子ども達の願いに応え、それらの願いを日々の授業の中で実現していくことができるような『分かる楽しい授業』を目指していきます。

§ 3 キャリア教育

⑥ <地域との交流> この地での生活に喜びを感じているか。

(小・中) A と回答した児童生徒は、小学校で特に高い数値を示している。中学校では、A と回答した生徒の割合は減少するが、A と B の回答数を合わせると 97% に達する。小学校・中学校共に、菅平での生活に満足している様子が見える。

⑦ <地域を知る> 地域の産業を理解しているか。

(小・中) 小学校では、D と回答した児童がいるものの、他は前年度後期と同じような数値を示した。中学校では、前年度後期に比べると、D の回答がなくなり、A の回答が 0% から 17% になった。菅平についての理解が少しずつ深まっているようだ。小学校・中学校共に、菅平についてある程度は知っているが、まだ詳しく理解するまでには至っていない。

<「§ 3 キャリア教育」についての考察>

子ども達が菅平小中学校で生き生きと学び、日々の学校生活をより実のあるものにしていくことが、地域での生活に喜びを感じ、地域・郷土を愛する心情を育てることに繋がると考えます。学校教育活動の中に地域素材を取り入れたり、地域講師を招いたりすることも大切です。小学校では、農業活動を通して、子ども達が菅平の自然と向き合いながら学習を進めています。中学校では、スキー活動を通して菅平の重要な観光産業と関わる体験を積んでいます。これからも、地域と子ども達を結びつけ、地域の中で育つ子ども達を支えていくような活動を、学校教育の中で大切に考えていきたいと思えます。

また、信州型コミュニティスクール「TEAM SUGADAIRA」の内容を整備し、活動準備を進め、有効に運営していくことも重要であると考えます。

地域と学校が協働し一体となって、郷土を愛し、郷土に誇りを持って逞しく生きる子ども達を育てていきたいと願っています。

【学校運営・学校作り】…保護者、教師へのアンケート結果より

① 子どもの良さを見つけること

(小) 教師が発見した子ども達の良さや頑張る姿、子ども達への励ましが、保護者へもよく伝わっていることがわかる。

(中) 保護者から見た教師の評価では、C・D の回答はない。しかし、教師が見つけた子ども達の良さや頑張りが、小学校に比べると保護者に伝わりにくいという状況が見えてくる。

② 優しく、厳しく子どもを導くこと

(小・中) 保護者から見た教師の評価・教師の自己評価では、小学校・中学校共に C・D の回答はない。子ども達の心に寄り添いながらも、馴れ合いになるのではなく、けじめをつけて子ども達と接し、毅然とした態度で指導する教師の姿が見える。

③ 楽しく分かる授業を創造すること

(小) 保護者から見た教師の評価・教師の自己評価では、C・D の回答がなく、概ね良好である。

- (中) 中学校でも、保護者から見た教師の評価・教師の自己評価では、C・Dの回答はない。しかし、Aの回答の割合が小学校に比べると低くなっている。教師の自己評価でも、Aの回答については、中学校の方が低い割合になっている。授業改善の努力や工夫が成果としてあらわれにくい現状があり、更に力を入れて「分かる授業」作りに取り組んでいく必要を感じる。
- (小・中) 保護者の家庭学習への関わりについては、小学校・中学校共にA・Bの回答が全体の8割～9割に達している。多くの保護者が、学力向上を願って、何らかの形で子どもに関わったり、子どもに働きかけたりしている。

④ 地域と連携すること

- (小・中) 家庭・地域・教師(学校)が一体となって、子ども達をよりよい方向へ伸ばし、育てていこうとする姿勢が見られる。特に、保護者から見た教師への評価で、Aと回答した割合が小学校で高くなっており、保護者・地域・教師の結びつきの強さを感じる。保護者の自己評価において、小学校・中学校共にA・Bの回答を合わせるとほぼ100%に達し、保護者の方々が進んで学校教育に協力してくださったり、地域での教育活動を支えてくださったりしている様子が伝わってくる。

<「学校運営・学校作り」についての考察>

- 認められ励まされることで子ども達は自信を深め、さらに力を伸ばしていきます。家庭でも積極的に子ども達の良さを認め励ましていただけるよう、今後も学級通信や学校だより、個別懇談などを通して、その子の良さや頑張る姿を適切に保護者の皆様に伝えていきたいと思えます。
- 子ども達を指導する際、できていないことだけを指摘するのではなく、どのようにすればできるようになるのか助言し、子ども達が目標や見通しをもって、自ら改善していくことが大切だと考えます。そして、できたときには、教師も子どもと共に喜び合い、子ども達一人一人の心をしっかり受けとめた指導をこれからも心がけていきます。
- 学力向上に向けて、保護者の期待に応え、確かな学力を子ども達に定着させることができるよう、授業改善に努めていきます。個に応じた指導を大切にして、基礎・基本の徹底を図りたいと思えます。
- 保護者の学校教育への高い関心や、期待の大きさが、保護者・地域・教師の連携を深め、学校教育の充実と向上に繋がっている面があると思えます。これからも、保護者や地域に信頼される学校作りに力を入れていきます。
- 保護者から見た教師への評価については、どの項目でもCとDの回答がなく、全体的に良い評価をいただいています。しかし、中学校では、Aの回答の割合が、全ての項目で小学校より低くなっています。中学生になると学習内容が増え、勉強もたいへんになります。思春期を迎え、子ども達の心が揺れ動きます。卒業後の進路を自分の力で切り拓いていくという大きな課題もあります。このような時期に、子ども達が自分の成長を実感し、さらに意欲を高めて勉強や部活に取り組めるよう支援していくことが、ますます重要になります。学校教育を通して、一人一人の子どもが自信を深め、様々な場面で生き生きと活動し、保護者の皆様にも子ども達の成長を喜び、安心していただけるよう、子ども達を支えていきます。

【その他】

- 学校生活のたのしさ…児童・生徒、保護者、教師へのアンケート結果より
 - (小) 児童・保護者ともに概ね良好である。ただし児童の7% (実数で3名) がCと回答している。
 - (中) CとDの回答がなく、中学校でも概ね良好である。特に、生徒の回答については、前年度後期にはCの回答が25%あったが、今回は0%となり、向上が見られる。

<「その他」についての考察>

多くの児童生徒が、毎日楽しく学校へ通っているというのは、とても良いことであり、大切なことです。子ども達が「今日も学校に来て良かった。明日も頑張ろう」と思えるような、魅力ある菅平小中学校であり続けるために、職員一同力を合わせていきます。

なお、同時にとりました<いじめ>に関するアンケートでは、中学校は全員から「なかった」という結果をいただきました。小学校では「あった」という結果もいただきましたが、その全てが「解決済み」です。また、<体罰>に関しても、小学校・中学校ともに「なかった」という結果でした。今後も学校全体で、体罰の撲滅に心がけて参ります。

- 「学校への要望・お気づきの点」について
忌憚のないご意見をいただき、ありがとうございます。日ごろ気付かない点にも気付かせていただくことができました。また、励ましのお言葉もいただき、たいへん嬉しく思います。少子化に伴って、PTA組織の改編についてのご提案もありました。提案・要望等につきましては、ひとつひとつ丁寧に検討してまいりたいと思えます。